

 Photograph


先人の偉業を讃える深良用水まつり

(4月26日)

第9回深良用水まつりが深良小学校運動場などで行われました。大庭源之丞や友野与右衛門をはじめ、江戸時代の農民や町人に扮した地元の住民約120人の仮装行列が、町震コミュニティセンターを9時に出発。新緑がまぶしい深良地区内の約2kmの道のりを、約1時間かけて歩きま

した。沿道の観衆からは盛んな拍手が上がっていました。会場となった深良小学校運動場では地元区の皆さんによる出店や、「いのちの用水」の演劇PRや有志による音楽演奏などのステージが披露されました。

(広報特派員 原 久子、小林 建次、山岸 康一)


 拝殿^{みこ}で巫女が舞い、みこしが街中を練り歩く

(4月12日)

世界遺産富士山の構成資産の須山浅間神社で春季例大祭が営まれました。式典には地元の関係者など約50人が出席。拝殿では地元の中学生による巫女の舞が奉納されました。来場者は、雅楽の調べに合わせて舞う幽玄な世界に魅了されていました。

式典終了後に、地元の若衆がみこしを担ぎ、参道の階段を慎重に降りてから、威勢の良い掛け声とともに街中へ向け出発しました。須山ばやし保存会による笛や太鼓の音色と共に、当番区を練り歩き、にぎやかな一日となりました。



新緑の中央公園でみどりまつり

(5月4日・5日)

GW中の2日間、新緑のまぶしい中央公園で、観光協会主催によるみどりまつりが行われました。

川からのそよ風と木漏れ日が美しい公園内では、飲食ブースや緑花木の販売、竹灯ろうの制作体験や展示、もちまきなどが行われ、2日間で約8,400人が訪れました。

4日(木)の夕方には、約100匹のこいのぼりと五竜の滝のライトアップも行われ、来場者は、カメラやスマートフォンを向け、撮影を楽しんでいました。

(広報特派員 原 久子、小林 建次、山岸康一)



こどもの日に用水路で マス釣り大会

(5月5日)

子どもの日に麦塚区で恒例のマス釣り大会が開催され、子どもたちや家族連れなど約200人が参加しました。区内の農業用水路約400mをせき止め、250匹のニジマスを放流。30cm近い大物を釣り上げると、大きな歓声が上がっていました。



不二農園で八十八夜にお茶摘み

(5月2日)

桃園の不二農園で、八十八夜にお茶摘みが行われました。職員が3人1組となって機械を操作し、手際よく摘んでいきました。同農園では5月上旬まで一番茶を収穫、その後は紅茶用の摘み取りを行うそうです。

※今号の表紙にもこの記事の写真が使われています。

(広報特派員 杉本 武満)